

令和6年度 ミニトマト（アンジェレ）技術情報 No. 4

- 1 草勢維持のために、かん水量を増やし、摘花を徹底しましょう。
- 2 収量、品質向上のため高温対策を実施しましょう。
- 3 病害虫対策のために定期散布を実施しましょう。



1 草勢のコントロール

- 草勢維持のために、生育に合わせて、かん水量を増やしましょう。さらに、摘花を徹底し着果負担を軽減しましょう（図1、2）。

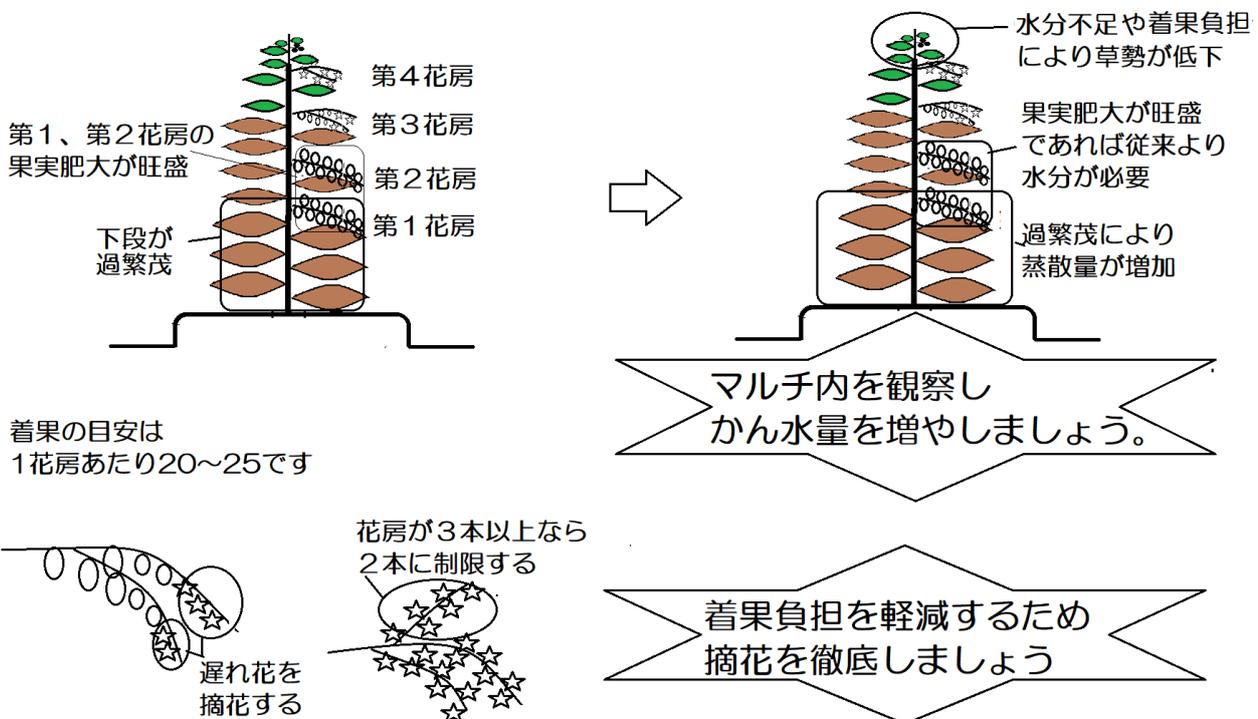


図1 第4花房開花期以降の草勢コントロール

	4			5			6			7			8			9			10			11				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
かん水量 (L/株/日)	第2花房開花期						第3花房開花期						収穫終了1ヵ月前													
ハウス普通			0.5			1.0			1.5			1.8			1.0			0.5								

図2 ミニトマトの1株あたりのかん水量の目安（毎日かん水の場合）
※ 2本仕立ての場合は、1株あたりのかん水量を2倍にしましょう。

2 高温対策

- 30℃以上で着色不良果や空洞果が発生し、35℃以上で落花が増加します。
- **高温対策**として、**遮光資材(遮光率 30%程度)**や**ツマ面の解放、循環扇の利用**等を実施しましょう。過度な遮光(例：遮光率 50%以上の遮光幕の使用)は空洞果の原因となります。曇雨天が続く場合は、遮光幕を外すなど天気に合わせて使用しましょう。

表1 温度管理の目標

	目標温度	備考
日中	25~28℃	30℃以上 ⇒ 着色不良 35℃以上 ⇒ 落花の増加

3 病害虫防除

【病害：葉かび病、すすかび病、斑点病】

- 7月以降、**葉かび病**や**すすかび病**、**斑点病**が発生しやすくなります。
- いずれも**糸状菌(カビ)の一種**によって引き起こされます。病斑は下葉から発生し、多発すると上葉までまん延し、枯死や落葉します。
- **気温 20~25℃**、相対湿度 70%以上の**高湿度条件**で発生しやすいです。葉かび病とすすかび病は、病斑がよく似ているため、肉眼での判別は困難です。特に、すすかび病は重症化し枯死に至ることが多いので、予防防除、初期防除が重要です。
- 発生を予防するために、防除暦を参考に定期散布を実施しましょう。
- 農薬を使用する際はラベル表示を確認し、使用基準を遵守してください。



図3 病斑の様子



【虫害】

- アブラムシ類やアザミウマ類、ハダニ類、タバコガ類の重点防除時期です。発生が見られた場合は、薬剤散布を実施しましょう。
- 新規害虫「トマトキバガ」の発生に注意しましょう。



図4 オオタバコガの幼虫
(上：若齢、下：老齢)



図5 トマトキバガの幼虫（上）
とトマトキバガによる食害

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。

★**クマにご注意ください！**

各地でクマによる人身被害が多発しています。農作業に当たっては、クマとの不意の遭遇に十分注意してください。